

# 高齢者向け運賃施策実証実験の評価について

## ○概要

高山本線ブラッシュアップ会議の取組の一環で、JR高山本線の利用促進と沿線地域の活性化に向けた実証実験として、高齢者向け割引乗車券「高山本線シニアおでかけきっぷ」を4/19～9/19の期間で発売。

利用促進効果や交通行動の変化等の効果検証を行うとともに、施策実施に係る課題を把握し、今後の取組方策を検討するために実施した、調査結果に基づき、本取組の評価を行う。

※各分析の詳細は【参考資料1】を参照

# 1-(1)高齢者向け運賃施策実証実験について ～概要～

## ■実証実験の概要

高山本線ブラッシュアップ会議の取組の一環で、JR高山本線の利用促進と沿線地域の活性化に向けた実証実験として、高齢者向け割引乗車券「高山本線シニアおでかけきっぷ」を発売。

## ■きっぷの概要

市内在住の65歳以上の方が、JR高山本線を利用してまちなかへ出かける際に、1乗車100円で利用できる特別企画乗車券

## ■発売期間

2022.4.19～9.19

## ■発売価格

1冊4枚つづり400円  
[1乗車につき1枚]

## ■利用条件

- ① JR高山本線[富山駅～猪谷駅]間が対象
- ② 9時～17時の普通列車が対象
- ③ 富山駅で乗車または降車をする場合に限る

## ■発売場所

- ① 有人駅（みどりの窓口）：JR富山駅、速星駅、越中八尾駅
- ② 市内旅行代理店（JTB富山店、JTB富山アピタ店  
日本旅行TiS富山支店、名鉄観光富山支店）

高山本線ブラッシュアップ会議 [富山市、富山県、JR西日本]

65歳以上の  
富山市民の  
みなさまへ

富山駅周辺へのおでかけが便利になる！

# 高山本線 シニアおでかけ きっぷ

発売期間 [期間限定]  
2022. 4.19 火 ～ 9.19 月

対象者  
市内にお住まいの65歳以上の方  
※昭和33年4月1日以前に生まれた方

利用条件  
・9:00～17:00の普通列車が対象です。  
・富山駅で乗車または降車する場合に利用できます。

1枚あたり  
100円  
1冊4枚つづり  
400円で発売

富山 ↔ 西富山 ～ 猪谷  
西富山: 速星、越中八尾、東八尾、笹津  
猪谷: 猪谷

お問い合わせ先 富山市交通政策課 TEL: 076-443-2195 [列車の運行等について JR西日本お客様センター TEL: 0570-00-2486]

# 1-(2)高齢者向け運賃施策実証実験について ～発売実績～

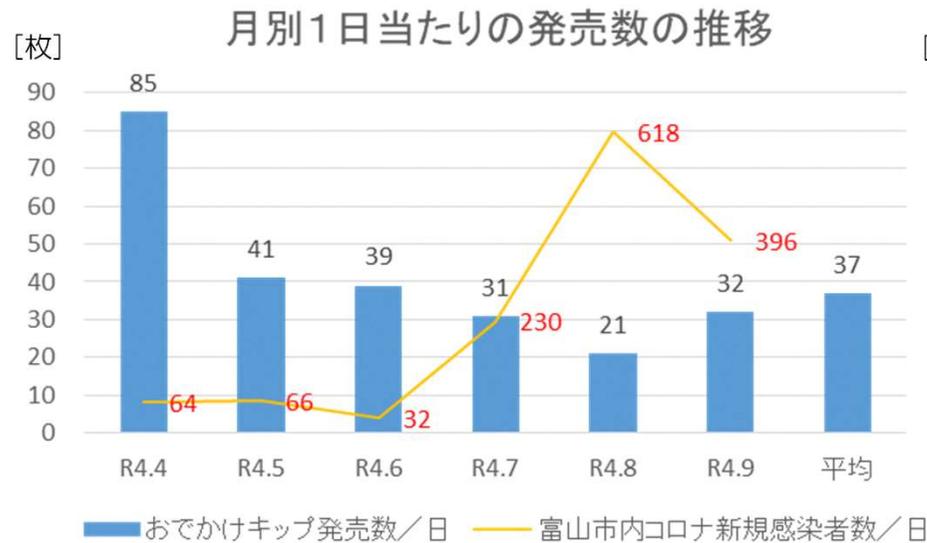
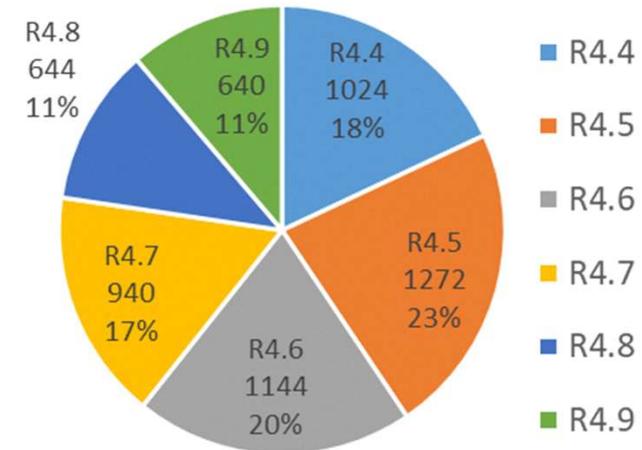
## ■発売実績 [JR西日本提供]

1,416冊 (5,664枚) → 約37枚/日

- 開始月の4月が最も発売数が多い。
- 7月から新型コロナウイルス感染症の拡大（第7波）に伴い、発売数が低調傾向にあることから、外出控えがあったものと推察。
- 発売箇所別では駅窓口が全体の約96%を占めており、越中八尾駅と富山駅にて購入する傾向がある。
- 市内旅行代理店においては、富山駅改札に近い日本旅行TiSで一定の売上（136枚,約3%）であった。

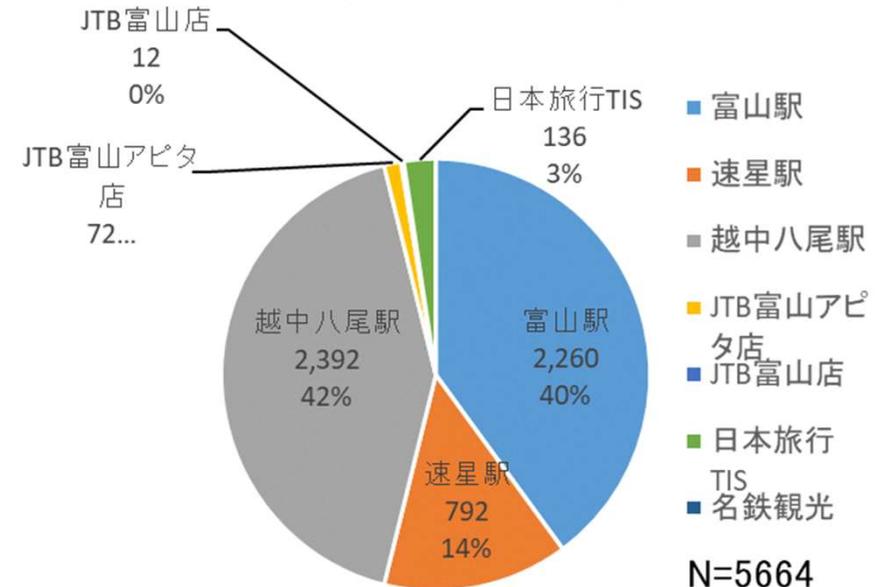
※R4.4は「4/19～4/31」、R4.9は「9/1～9/19」の期間を示す

月別売上枚数[枚] N=5664



[新型コロナ新規感染者数の出典先] 富山県HPより

発売場所別売上枚数[枚]



N=5664

# 2-(1) 効果検証のための利用実態調査の概要

## 1) 調査の主旨

高山本線の利用実態や高齢者向け運賃施策の実証実験の効果を把握するため、乗降及びOD調査を実施・分析するとともに、高山本線ブラッシュアップ施策の検討の基礎として活用するもの。尚、必要に応じ、過年度の調査結果との比較を行う。

## 2) 調査方法

### ①乗降調査

各駅で便別の乗降客数をカウンターにより計測

### ②OD調査（付帯アンケート含む）

OD調査票を利用者に乗降駅で配布し、降車駅で回収  
OD票に付帯するアンケートでは、「外出の目的」「性別」「年代」「職業」「定期・定期外」「乗継交通」の項目について調査（右図参照）

## 3) 調査日時

◆平日：R4(2022)年6月21日（火） 始発～終電まで

◆休日：R4(2022)年6月26日（日） 始発～終電まで

## 4) 調査対象

◆富山駅～猪谷駅の全10駅

◆始発～終電までの全列車（※OD調査は普通列車のみ）

## 5) OD調査票回収率

乗車人数…5,644人、回収枚数…3,710枚

→ 回収率…65.7%

高山本線利用アンケートのお願い

No 00001

毎度ご乗車いただきましてありがとうございます。今日は高山本線の利用実態調査を行っております。

ご協力をお願い

裏面のアンケートについて、該当する番号を折り込んでください。

降りる時に、各駅の回収箱にお入れいただくか、調査員へお渡しください。

終日調査をしています。

1回乗車する毎に回答いただく調査です。

複数回お答えいただく場合もあるかと思いますが、ご協力をお願い申し上げます。

富山市・富山県・JR 西日本

(調査員記入欄)

降車駅

降車時刻

乗 富山

表側

あてはまるところを指折り曲げて、降りる時に回収箱に入れてください

乗車・外出の主な目的（もくてき）は

1 通勤 通院 4

2 通学 鏡見 5

3 買物・私用 その他 6

切符（きっぷ）の種類は

1 定期券 普通切符・現金など 3

2 高山本線シニアおでかけきっぷ

あなたの性別（せいべつ）は

1 男 どちらでもない 3

2 女

あなたの年齢（ねんれい）は

1 0才～14才 65才～74才 3

2 15才～64才 75才以上 4

あなたの職業（しよくぎょう）は

1 児童・生徒・学生 職業従事者 3

2 主婦・主夫 無職・その他 4

乗車直前の交通手段は 降車直後の交通手段は

今回、列車に乗る前に利用した交通手段は（1つだけ）

1 新幹線 1

2 あいの風とやま鉄道（高岡・金沢方面） 2

3 あいの風とやま鉄道（魚津・泊方面） 3

4 市内電車（路面電車） 4

5 地鉄本線・立山線・上滝線 5

6 猪谷以南（岐阜方面）のJR高山本線 6

7 自動車（自分で運転） 7

8 自動車（送り迎え） 8

9 路線バス 9

10 コミュニティバス 10

11 自転車 11

12 徒歩 12

13 その他（タクシー・バイク等） 13

ご協力ありがとうございました

裏側

図 OD調査票

# 2-(2) 効果検証のための利用者アンケート調査の概要と検証項目

## 1) 調査の主旨

JR高山本線運賃施策実証実験（シニアおでかけきっぷの発売）に関する効果を検証するために、本きっぷの利用者を対象にしたアンケート調査を実施するもの。

## 2) 調査の概要

実施主体：高山本線ブラッシュアップ会議

実施期間：令和4年8月5日～9月30日

対象者：シニアおでかけきっぷの利用者

配布方法：駅窓口にて本きっぷの購入者に対して配布

回収方法：郵送（返信用封筒を同封）

配布枚数…99部、回収枚数…44部

→回収率…44.4%

### JR高山本線実証実験（シニアおでかけきっぷ発売）に関するアンケート調査

富山市では鉄軌道をはじめとする公共交通を活性化させて、その沿線に都市の諸機能を集積させる「公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくり」を推進しています。

JR高山本線は富山市の重要な公共交通軸であり、これまで、列車の増便運行を軸とした活性化事業に取り組んできましたが、更なる利便性の向上やネットワーク機能の強化を図るために、富山県、西日本旅客鉄道（株）、富山市の3者にて「高山本線ブラッシュアップ会議」を設立し、施策の一環として、実証実験「高山本線シニアおでかけきっぷの発売（9/19まで）」を実施しています。

この度、本実証実験に関する今後の施策検討の基礎資料とすることを目的としたアンケート調査を実施させていただきます。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、アンケート調査にご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

#### 【注意事項】

- ご回答はあてはまる番号に○をつけるか、( ) や  の中に具体的に記入してください。
- アンケートの回答は、お一人様1回限りです。
- アンケートは「シニアおでかけきっぷ」を利用される方が回答ください。
- ご回答いただいたアンケート用紙は、同時にお渡しいたしました返信用封筒に封入の上、9月30日（金）迄に郵便ポストに投函していただきますようお願いいたします。（切手は不要です）
- ご回答いただいた内容は統計的に処理し、本調査の目的以外に使用いたしません。

【実施主体】 高山本線ブラッシュアップ会議 [富山県、西日本旅客鉄道（株）、富山市]

【お問合せ先】 富山市 活力都市創造部 交通政策課 電話 076-443-2195

### <主な調査・検証項目>

#### ①利用促進効果等の利用実態の把握

（利用者の属性・居住地、外出の目的、利用頻度等）

#### ②利用者の交通行動や外出意識の変化

（交通手段・利用頻度・外出頻度・買い物行動の変化等）

#### ③本格実施に向けた検証と課題の洗い出し

（施策の満足度・重要度、利用者ニーズの把握）

#### 【利用者の属性について】

問1. あなたご自身（「シニアおでかけきっぷ」をご利用される方）についてお答えください。

性別	1. 男性      2. 女性      3. どちらでもない
年齢	1. 65～69歳    2. 70～74歳    3. 75歳以上
職業	1. 会社員（役員含む）・公務員    2. 自営業    3. パート・アルバイト 4. 主婦・主夫    5. 学生    6. 無職    7. その他
住所	〒 <input type="text"/> - <input type="text"/> <input type="text"/> もしくは、富山市 <input type="text"/> ※番地は不要です。〈例〉大手町、総曲輪3丁目 など
車・免許証有無	1. 免許証を持っていて、自由に使える車がある 2. 免許証を持っているが、自由に使える車はない 3. 免許証を持っていたが、返納した 4. 免許証は持っていない
アンケート回答日	2022年      月      日

## 2-(3) 効果検証①(※各分析の詳細は【参考資料1】を参照)

### ①利用促進効果等の利用実態の把握

#### <利用実態調査結果>

- 高齢者のODは富山駅が中心であり、平日休日とも日中の利用率が高い。
- 本きっぷを活用する利用者は、ほぼ越中八尾駅から以北に集中。
- 本きっぷの利用割合は平休で約38%であり、現金は約51%。  
⇒本きっぷの利用割合を高める取り組み（更なる周知活動や販売拠点の拡大など）が必要
- 利用者は、平休とも「買い物」目的が第1位で40~50%を占めており、平日は「その他」目的が、休日は「観光」目的が第2位である。

#### <利用者アンケート調査結果>

- 利用者の約57%が免許を保有し、かつ自由に使える車を持っている人である。  
⇒事業の利便性が高まればJR高山本線へ利用転換する可能性
- 利用者の居住地と最寄り駅の距離は、500m以下、500m~1km圏内、1km以遠とほぼ同率。  
⇒利便性を高める取組みは駅勢圏（500m）以遠の住民の需要を喚起する可能性
- 主な行き先方面・目的地は、富山駅周辺や総曲輪周辺に集中。

## 2-(3) 効果検証②(※各分析の詳細は【参考資料1】を参照)

### ② 利用者の交通行動や外出意識の変化

＜利用者アンケート調査結果＞

- 交通行動の変化として、購入前はJR高山本線、自動車（自分で運転）、路線バスが何れも30%前後と拮抗していたが、購入後はJR高山本線が84%となり、交通手段が高山本線へ大きく転換。
- 購入前より外出頻度が増えたと回答した人は全体の約60%強であり、沿線の外出機会の創出に一定の効果があると考えられる。
- 購入前は週1回以上外出する人は全体の24%であったのに対し、購入後は42%と18ポイント上昇している。
- 本きっぷを9回以上利用している人が約50%、5～8回利用している人と合わせると約70%弱であり、複数回購入しているリピーターが多い。
- 買物行動について、約55%の人は買物頻度が増えたと回答。
- 本きっぷの購入前後で目的地での滞在時間が増えたと回答した人は約42%、一方、増えていないと回答した人は約29%。  
⇒日中の運行本数を増やすことで、外出時間の自由度が高まり、まちなかへの滞在時間が更に増え、地域経済の活性化や歩くことによる健康増進等へ寄与するものと期待。

## 2-(3) 効果検証③(※各分析の詳細は【参考資料1】を参照)

### ③本格実施に向けた検証と課題の洗い出し

<利用者アンケート調査結果>

- ・満足度では、「① シニアおでかけきっぷの取組」、「② 使いやすさ」、「③ 発売価格」について高い評価。
- ・重要度では「やや重視する」まで含むと70%以上の人全ての評価項目を重視。
- ・重要度は高いが満足度が低い評価項目は「④ 発売期間」であった。  
⇒実証実験のため期間限定であることに不満があるものと考えられる。
- ・「⑦ 利用可能な列車の本数」の満足度も「やや満足」まで含めると40%強の支持を得ているが、重要度では「やや重視する」まで含めると90%弱を占めており、今後の事業実施に向けて、運行本数や利用時間帯が課題である。
- ・ ほぼ全員が今後も同様のサービスが提供された場合、利用したいと回答しており、本事業の支持率は高い。
- ・自由意見では、「実施期間の延長、今後の継続実施」「運行本数の増加」「利用可能時間の拡大」を希望する意見が多かった。
- ・「情報発信方法の改善」において、本取り組みを知るのが遅かったという意見も見られ、対象者への周知PRが不足していたと考えられる。 ⇒本格実施時は更なるPR強化が必要

### 3 施策の評価と今後の方針(案)

#### ◆施策の評価

- 施策については高い評価を得ており、施策継続のニーズが高い。
- 高山本線への交通モードの転換が図られるとともに、駅勢圏（500m）以遠の在住者からも需要あり。
- 施策により、外出頻度が増加傾向にあることから、外出機会の創出に一定の効果有り。
- 施策により、買物頻度やまちなかの滞在時間は増加傾向にある。  
⇒地域経済の活性化や歩くことへの健康増進等へ寄与するものと期待。
- 本きっぷの利用割合が現金よりも低く、施策の更なる波及が課題。  
⇒対象者へのPR不足が一因と考えられる。
- 「実施期間の延長・今後の継続実施」「運行本数の増加」「利用可能時間の拡大」について、利用者からニーズあり。

～今後の方針（案）～

更なる利便性向上に資する施策と判断し、関係機関と調整及び連携を図り、令和5年度の通年実施を目指す。